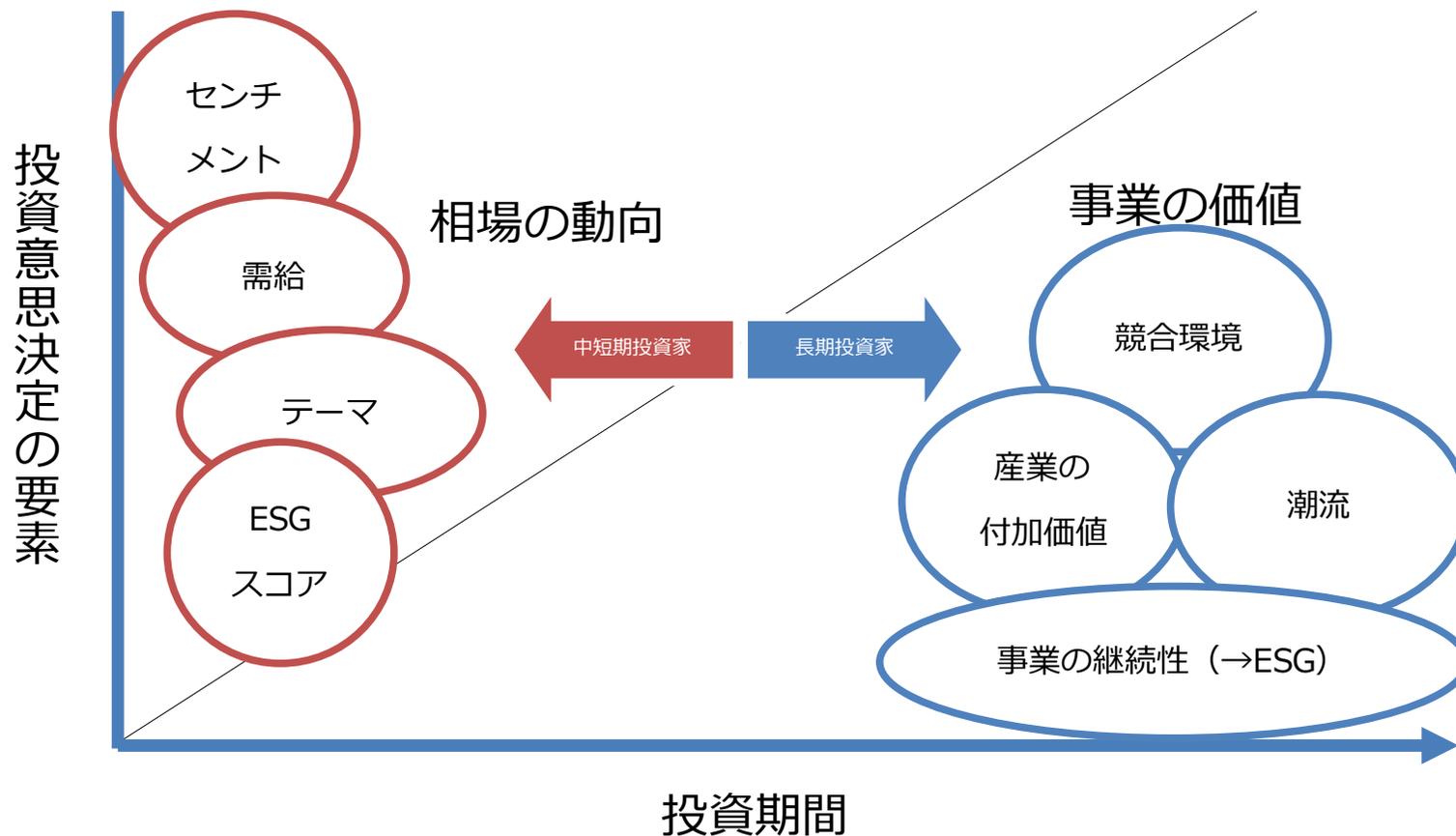


ESG投資基本方針

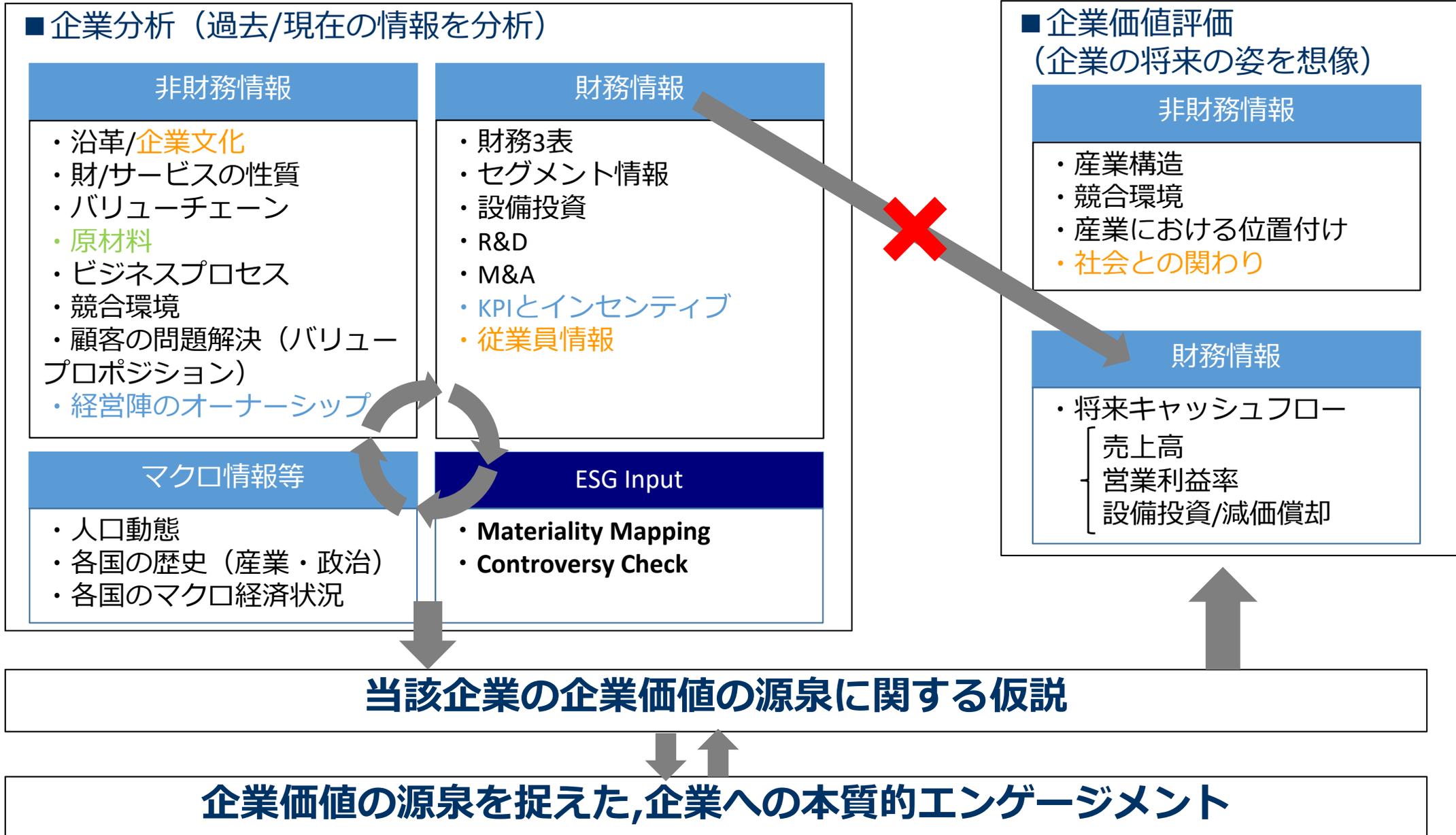
2018年2月制定
2018年8月施行

1 投資家の意思決定とESG



長期投資を行う以上、事業の継続性は大前提であり、社会の健全な発展と事業の方向性を異にするような企業は投資対象とはなりえない。長期投資家にとってESGとは、単純に数値化して評価するものではなく、当然に投資決定の本質的な要素の一つとして、重層的な産業・企業分析を通じて「企業価値」との関係性の中で確認していくべきものである。

2 NVICの企業価値評価とESGの関係性



3 企業価値評価におけるESG Inputの活用

■ 外部情報のInput

Materiality Mapping

⇒ 企業/産業ごとに重要性の高いESG項目を特定

E	S	G
地球温暖化	健康と安全	コーポレートガバナンス
自然資源	ダイバーシティ	公正競争
環境汚染	労働環境	情報開示
⋮	⋮	⋮

Controversy Check

⇒ 報道等からネガティブ情報をスクリーニング

■ NVICとしての評価

当該企業の
長期的な企業価値に
影響を及ぼすか？

■ 企業とのエンゲージメント

4 SDGsとESGとの関係性

企業

投資家



社会問題の解決
= 成長機会として
選択

エンゲージメント

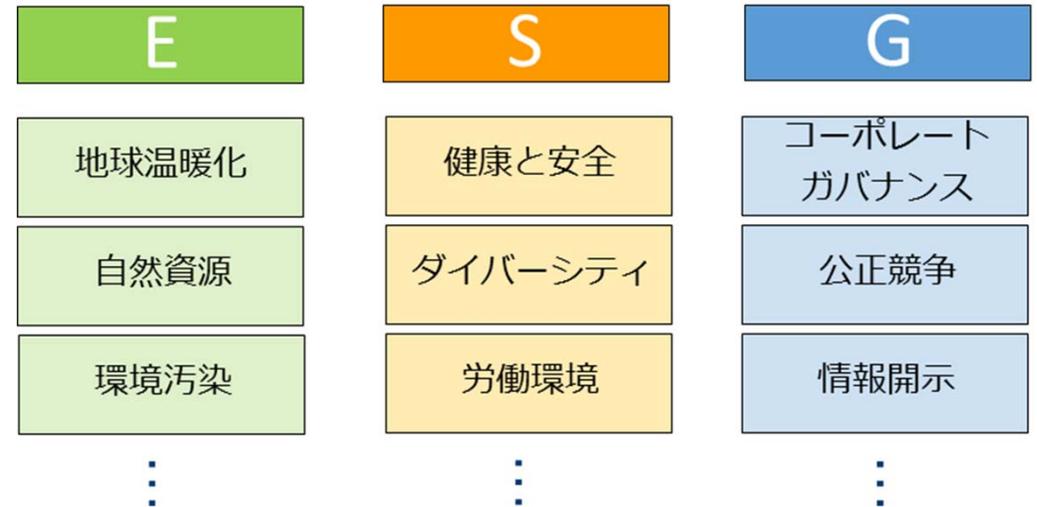
企業価値評価の
1要素として活用

SDGs



(出所：UNDP)

ESG

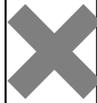


5 構造的に強靱な企業とSDGs

構造的に強靱な企業

産業の付加価値

- ・顧客の問題解決
- ・財/サービスの性質
- ・バリューチェーン内での位置付け



競争優位性

- ・参入障壁
- ・規模の経済
- ・スイッチングコスト



長期潮流

- ・人口動態
- ・医療機会
- ・食糧生産性向上

持続的な
企業価値
増大



社会問題解決は企業にとっての成長機会となりえるが、それだけで企業価値向上が期待できる訳ではない。

その企業が「**排他的に**」提供する「**付加価値**」と結びついて初めて、持続的な価値増大につながる。